

報道各位

Well-being society の実現に向けた データ利活用による健康経営の実践

－「従業員の健康関連データ利活用の実践事例集の作成」及び 「データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査」－

健康長寿産業連合会 健康関連データの活用推進ワーキンググループ（以下、WG2）は、この度、「従業員の健康関連データ利活用の実践事例集の作成」及び「データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査」を行い、その成果を取りまとめましたのでご報告します。

2022年度は、従業員の健康関連データ利活用の実践及び実態調査を行い、その結果を踏まえて、データ利活用の基本ユースケースを作成しました。これらの取り組みや実態調査結果を通じて、健康関連データの利活用において「個人情報を取り扱う際の制約が複雑でわかりづらい」という点が課題となっていることが分かりました。

2023年度は2022年度の成果を踏まえ、「従業員の健康関連データ利活用の実践事例集」を作成するとともに、個人情報保護法等の制度的な要請事項に係る「データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査」を実施しました。

従業員の健康関連データ利活用の実践事例集のポイント^{※1}

- 2023年7月に発表した、『従業員の健康関連データ利活用の実践及び実態調査を踏まえたデータ利活用の基本ユースケース（案）』^{※2}を「従業員の健康関連データ利活用の実践事例集」として更新しました。
- 実践事例は、1つの施策内で1つの基本ユースケースを実施している単独事例とユースケースを組み合わせる複合事例に分類しています。単独事例では「セルフケア」「非医療職による支援」「医療職による支援」、複合事例では「セルフケアと非医療職による支援」「セルフケアと医療職による支援」を取りまとめ、それぞれ概略・図解・詳細の3つのパートで紹介しています。
- 健康増進実務者が、自社の状況に応じて参考となる事例を選択しやすいように、実践事例に対する「ニーズと対応策」をまとめています。

実践事例

ニーズと対応策

概要

スマホアプリを活用したウォーキングによる肥満・高血圧症予防

アプリでウォーキングイベントを開催し、チーム対抗で歩数を競う。スマートフォンの歩数計データは、アプリ内などで、アプリ内のデータとして集約・更新される。イベント終了後、歩数データをダウンロードし、チームや個人ごとのランキングを算出する。

- ランキングは自分のニックネームで確認することができ、日々の歩く習慣が促される。

本人の活動支援（セルフケア）
＜ライフログの収集と活用＞

本人：歩数データをアップロード、ウォーキングイベント参加・順位確認

会社：歩数データをアップロード、ウォーキングイベント参加・順位確認

図解

利用データ：● ライフログ（歩数）
システム：● スマートフォン ● ウォーキングアプリ

効果

- 在宅ワークでの運動不足解消
- 歩かざる習慣化
- 肥満、高血圧症予防

特徴（ノウハウ）

- ニックネームで参加可能とすることで、プライバシーに配慮しつつ、参加を促進。
- スマホアプリを法人契約することで全国の事業所でウォーキングイベントを実施。
- スマホアプリの連携機能で、他企業や自治体との連携イベントも実施
- イベントに景品をつけること（インセンティブの付与）で従業員の参加意欲を向上。

●セルフケア

ニーズと対応策	実践事例	ページ数
新たに測定器を導入せずにライフログデータを取得したい。 → スマホアプリの活用で、歩数を抑えてライフログ（歩数）を取得する。	① スマホアプリを活用したウォーキングによる肥満・高血圧症予防	P6
健康増進イベントの参加率を上げたい。 → 部署別チーム戦、ランキング表示などの企画で、参加のモチベーションを向上させる。	② チームでの競争による健康増進イベントの参加促進	P7
健康関連情報をセルフケアに活用したい。 → 健康関連情報にアクセスしやすい環境をつくり、セルフケアを促進する。	③ パーソナル健康ポータルサイトの活用によるセルフケア促進	P8

●非医療職による支援

ニーズと対応策	実践事例	ページ数
医療職の稼働を増やさず、社員の健康支援を行いたい。 → 管理職へのヘルスリテラシー研修で、管理職の健康支援ノウハウを向上させる。	④ 管理職のヘルスリテラシー向上による健康支援	P9

●医療職による支援

ニーズと対応策	実践事例	ページ数
医療職の負担を増やさず、勤務データを活用した健康指導を進めたい。 → 産業保健スタッフと人事部の共同会議で、健診結果と勤務データを分析する。	⑤ 医療職と人事部の連携による健康指導の高度化	P9

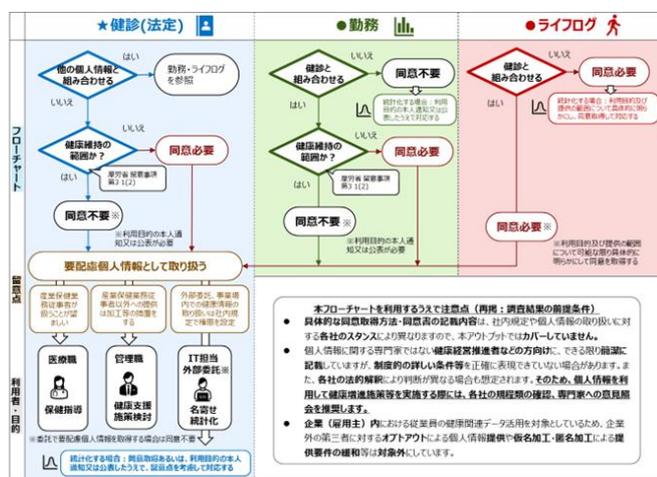
※1 別添1：2023年度ユースケース更新（実践事例集）

※2 従業員の健康関連データ利活用の実践及び実態調査を踏まえたデータ利活用の基本ユースケース（案）

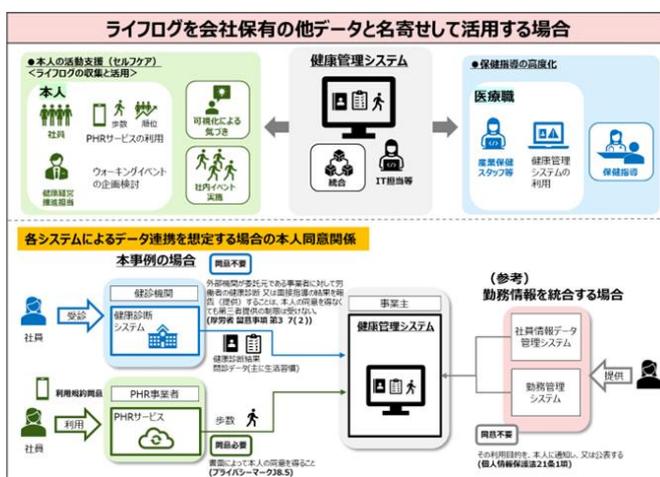
データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査のポイント※3

- 本調査では、健康関連データの活用において課題となる個人情報の取り扱いについて、健康経営推進者など（個人情報に関する専門家以外の方）への、簡易的なリファレンスとなり、健康経営の推進を後押しすることを目的として、制度的な要請事項を踏まえた個人情報の利用におけるポイントを整理しました。
- ポイントの整理にあたっては、「制度的な要請事項」「制度の詳細解説」「本人同意の要否」「個人情報活用における対応例」を紹介しています。
 - 「制度的な要請事項」「制度の詳細解説」では法令等の規定に沿ってポイントを整理しています。
 - 「本人同意の要否」では、健康増進実務者が簡易に理解を深められるように、「本人同意の要否が確認できる一覧」と「複数データを扱う際の本人同意の要否をフローチャート」でまとめています。
 - 「個人情報活用における対応例」では、実践事例にある、健診データ（法定内）とライフログデータを利用する場合の対応例に加え、勤務データも含めたシステム統合の例も紹介しています。

本人同意の要否（フローチャート）



個人情報活用における対応例



※3 別添 2：2023 年度データ利活用に係る本人同意取得等の課題に関する詳細調査

詳細は、健康長寿産業連合会ホームページ (<https://www.well-being100.jp/>) をご確認ください。

<問い合わせ先>

健康長寿産業連合会 健康関連データの活用推進ワーキンググループ (WG2) 事務局

Email: kenkochoju-wg2@nttdata-strategy.com